

# [人財彩時記]

飴村 秀子さん



あめむら ひでこ  
飴村 秀子さん

Profile  
hideko amemura

昭和3年 広島県呉市生まれ  
昭和41年 光風会受賞、日展初入選  
昭和62年 日展特選受賞(平成4年再特選)  
平成11年 アメリカ、ポートランド市、バンクーバー市に於いて個展及びセミナー開催  
平成13年 イギリス、ロンドン市他で開催された「Japan2001」に参画  
王立芸術大学院等に於いて個展、セミナー、ワークショップを開催  
平成18年 日展評議員  
平成22年 個展「藍と愛展」を旧日本銀行広島支店ギャラリーに於いて開催  
現在 日展参与、日本現代工芸美術家協会評議員「染めのあとリエ」主宰



りんざい  
臨済Ⅱ (サムエル記下22-29)  
(第51回 日本現代工芸美術展出品)

## 藍

染を纏まとった等身大の作品や福音の手を思わせる藍染作品などに囲まれた部屋でお話を伺いました。

富海の松林を眼下に見下ろし、夏には涼しい海風がとおりに抜け、冬には後ろの山を盾にして陽だまりになる暖かい地形が、藍を育むには最適な環境だそうです。

藍染めをするようになったきっかけは、「子どもの頃に『あれを買って』とねだるのではなく、『あれを作って』という、誰かが形にしてしまおう、もの作りが大好きな家族の中で育ったことも大きな要因かもしれません。」と両親や祖父のことを懐かしそうにお話になりました。

世界中に藍染めはありますが、化学染料と混合したものも多いそうです。飴村さんのアトリエでは、灰汁あかで育んだ正藍しょうあいを使い、生きた藍の力を借りて、正に藍との共同作業で、布等を染めて作品を作っておられます。

「そのような正藍を用いた藍染めは世界に誇れる、日本人の感性が磨いたジャパンプルーです。特に、淡い澄んだブルーは他に類を見ない特異な色なので、無形の宝として後世に伝承していきたいです。」と話されました。

これからの夢をお聴きしますと、「まだ、たくさん布きれや、こより染めにする紙が残っているの、これらを

使って作品を作っていくたい。」と制作意欲にあふれた様子でした。ジャパンプルーのすばらしさを地域社会、全国、世界中に発信する企画もあり、藍は、正に飴村さんの元気の源のようでした。

飴村さんのように、純粋に希望にあふれて、きれいに歳を重ねたいものだと思えました。

(取材：堀江・原田)

昨年、起業をした女性3名によるトークショーを行いました。お客さんも女性限定。定員はすぐに埋まり、質問コーナーまで熱く、実の詰まったトークショーでした。

最近、私は女性がとても元気だと感じます。メディアを賑わす女性アイドルグループは、各地にご当地アイドルブームをも起こしました。テレビのニュース番組やワイドショーも女性出演者の比率が男性のそれを大きく上回っています。コンビ二エンスストアで見ると雑誌も女性誌の多いこと。

最初のトークショーの話に戻しまして、男性の私が彼女たちの話を聞いていて思ったのは、女性の持つ現実的な考え方や行動力です。「女々しくて」は男性の気質を表す言葉。転機に際しては、男性は考えをめぐらす。悪く言うと行動に移すのが遅い人が多いように思います。

情報があふれている現代だからこそ、情報を収集し検討するばかりではなく、行動を起こすということが大事ではないかと思えます。下手の考えなるとやら、と言います。最近の女性の活発さを見るにつけ、男の私はそう思います。それは私だけかもしれませんが。

